

お父さん、ありがとう

安留^{やすとめ} 千世^{ちせ}

私のお父さんは、児童相談所ではたらいっています。色々な子どもや親のおうえんをする仕事をしています。いつもそがしくて、夜や休みの時も電話がかかってきたり、よばれたりします。家族で出かけている時や遊んでいる時でも電話があると、お父さんは電話にでます。それで、私達は何十分もがまんしなければならぬこともあります。また、休みの日なのに急に仕事になって、私のエレクトーンの発表会に来られないこともあります。私や弟より他の子どもを大事にしてるみたいで、本当にいやでした。この前も映画に行く約束をしていたのに、仕事になってしまいました。それで、ずっと言わないようにしてきた言葉を言ってしまうました。「お父さんは、私より他の子の方が大事だからね。」と。お父さんは「ごめんね」とやさしくあやまってくれましたが、悲しそうな顔をしていました。

以前、テレビでお母さんが子どもをたたいてしまったというニュースがながれた時、私が

「お母さんなのに、なんでそんなひどいことができるのか」と聞くと、お父さんは「いたましいことだね。でも、あのお母さんにも色々な苦しいことがあったかもしれないよ。」と書いていました。また、中学生が悪いことをしたというニュースの時も「悪いことはしたけど、悪い人間ではないと思うよ」と書いていました。お父さんは、「その人の良いところを見つけておうえんするのが児童相談所の仕事」とよく書いていますが、いけないことをした人の良いところを見つかるなんてすてきだけど、たいへんな仕事だと思います。

そんなたいへんな仕事から帰ってくると、お父さんは私や弟と遊んでくれたり、勉強を教えてくださいたりします。休みの日に遠くの会場で私のエレクトーンの発表会や弟のサッカーのしあがあるのとつれていってくれます。朝早くから出かけるので、私達は車の中でねてしまうのにお父さんは家にもどるまで休みません。

仕事もがんばっているけど、私達のためにもがんばってくれるお父さんに本当は「ありがとう」と言いたかったのに、あんなことを言ってしまう後かいしています。だから、この作文で言います。「お父さん、いつもありがとう。お父さんがたくさんの人をおうえんするように、私はお父さんをおうえんしていききたいです。」